



▲テレビ電話で健康相談を受ける参加者

市内6地区で65歳以上の方の健康状態を調査しており、そのデータと将来の気候変動予測データをもとに、気温上昇が健康に及ぼす影響も研究していきます。

病気になるない生活づくりと、情報通信技術を活用し将来の医療のあり方を探る遠隔医療

健康・医療

研究分野の概要と今後の取り組み

などを健康づくりの拠点とし、生活習慣病予防を中心とした健康づくり事業を実施しています。

今年の2月から7月まで、築館、若柳、金成地区で、テレビ電話などの通信機器を使った遠隔健康相談事業を試験的に実施し、参加者から好評をいただきました。なお、秋以降にも市内の数力所で同事業を実施する予定です。

また、将来、過疎地域などで直面することが想定される医師不足など、重要な課題を解決するため、在宅や集会所などでネットワークを使った遠隔医療により、一定の医療が受けられる仕組みの実現に向けた研究を行っています。

なお、すでに市

市は、平成22年度から慶應義塾大学と連携し、同大学が研究を進める将来的な気候変動による影響と、適応策を検討する「グリーン社会ICTライフインフラ」研究プロジェクト（代表金子郁容教授）を支援しています。

この研究は平成26年度までの5年間にわたり行われる予定で、現在行われている4つの分野（健康・医療、エネルギーマネジメント、災害対応、農業）の概要と今後の取り組みについて紹介します。

研究の経緯と目的

平成22年に文部科学省が国内の研究機関に対して、地球温暖化による気候変動に対応した研究を募集し、慶應義塾大学が提案した「グリーン社会ICTライフインフラ」が採択されました。市は同大学へ研究の場を提供するとともに、この研究について支援しています。

研究の目的は、地球温暖化による気候変動が自治体へ与える悪影響を推定し、それに対応する適応策、つまり市民が安全安心な生活を送るための仕組みを作り、その効果を実証することです。

この研究では、最先端の情報通信技術により、エネルギー消費の情報を測定し、エネルギーを効率的に利用することや、遠隔からの健康（医療）相談や疾病予防を図る仕組みづくり、災害発生時の情報通信、最新IT機器の活用による効率的な農業を行うための研究などが行われています。

これらの研究により、地球温暖化による気候の変動に適応するための検討を行い、栗原で安心して暮らしていくとともに、活力ある地域を創ることを目指しています。

※ICTとは、情報通信技術のことです

エネルギー・マネジメント

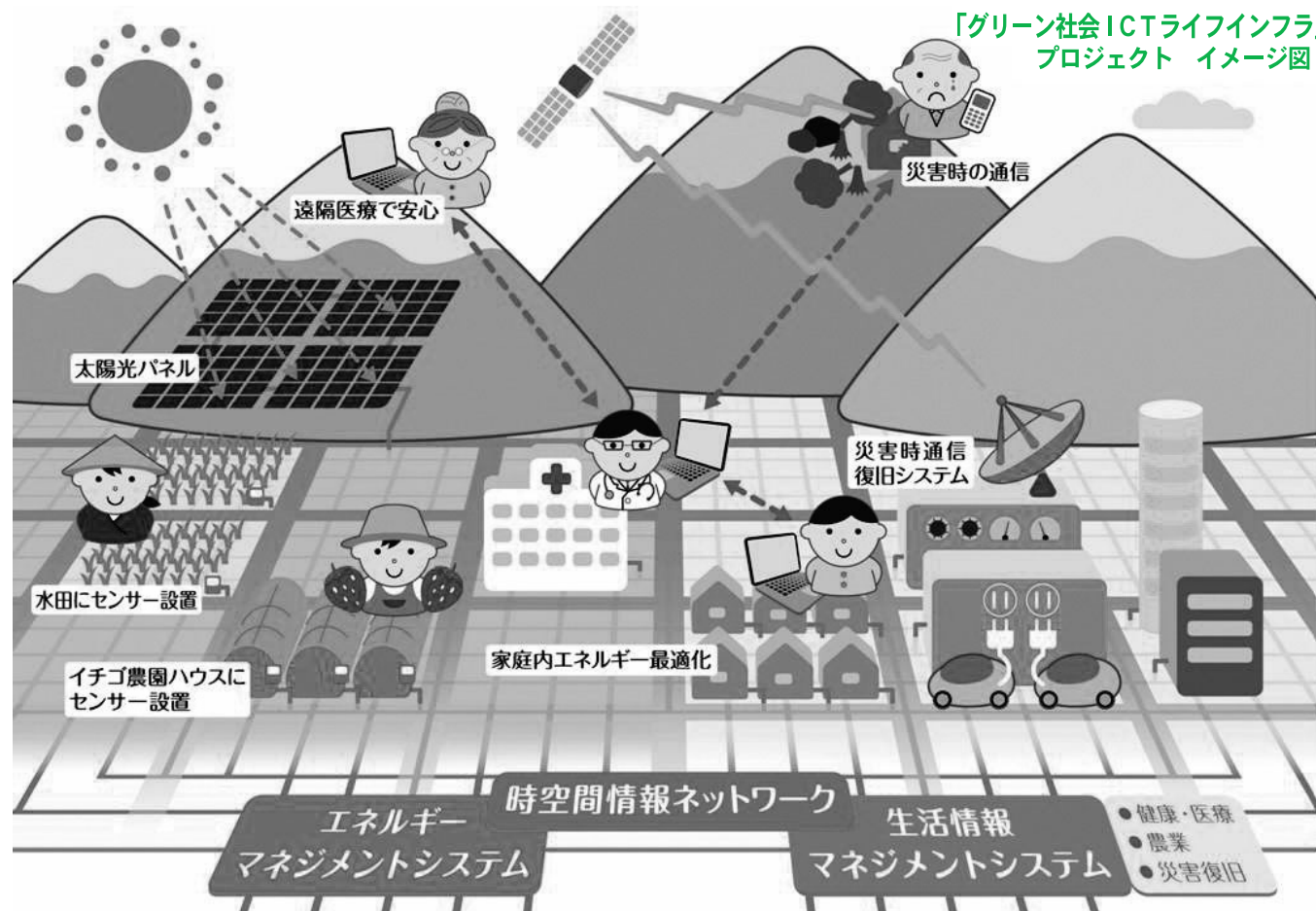


▲市役所内に各種センサーを設置

EMS（エネルギーマネジメントシステム）は、電力使用量の可視化、節電（CO₂削減）のための機器制御、太陽光発電など再生可能エネルギーや蓄電の制御を総合的に行うシステムです。

現在、市役所本庁舎、ふるさとセンター、図書館・同システムを導入しており、温度・湿度・照度など各種センサーを設置することで、快適さを保ちながら空調機器などを効率的に制御する研究をしています。今後は、宿泊設備と教育施設にも

「グリーン社会ICTライフインフラ」プロジェクト イメージ図



グリーン社会ICTライフインフラとは、インターネットや無線など最先端の技術を用いて開発されたセンサーネットワーク。

災害対応

来るべき災害に備えて、災害情報緊急ホットラインシステムの導入

市は平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震で浮かび上がった、孤立集落における通信手段断絶という課題を解決するため、大学へ災害時の情報緊急ホットラインシステム（VSAT衛星通信）の研究を依頼しました。



▲VSAT衛星通信システム

災害情報緊急ホットラインシステムには、避難所での情報発信を

目的とするエリア限定ワンのセグ放送システムもあり、これらの導入により、災害時の迅速な情報伝達が可能となります。

農業

イチゴ栽培で最新IT機器と各種データを活用した栽培と出荷管理



▲最新機器により栽培管理されるイチゴ

栗駒地区のイチゴ栽培農家に各種センサーを設置し、過去に観測した気象データと温暖化のデータ分析を踏まえ、温暖化に適応した栽培管理を行うとともに、市場動向のデータも取り入れ、出荷時期を調整する研究も行っています。

また、新品種による試験栽培と栽培果実の品質検証も行います。